

国際経営学部

松村 岳

2022年8月25日

『長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金』報告書

留学先国：オランダ

大学名：フォンティス応用科学大学 “Fontys University of Applied Sciences”

期間：2021年8月から2022年8月まで

はじめに

交換留学生として内定を頂き、本奨学金の受給が決定してから2年半が経とうと
しています。コロナウイルス感染拡大の影響で延期を重ね、先が見えない状況の
中でもこうして1年間の交換留学を無事終了し、報告書を作成している事実には
感謝しかありません。本奨学金の受給にあたり柔軟に対応してくださった国際経
営学部、そして支えてくださった全ての方々に御礼申し上げます。

留学前の目標

私は、今回の留学をするにあたって以下の二つを目標として掲げていました。

・マーケティングの実践力を身につける

国際経営学部でマーケティングに関する講義を受講し、世の中に溢れる製品や広告全てに企業・メーカーからのメッセージが込められていると気づいた時に強い好奇心を抱きました。そのため、マーケティングの講義が数多く開講され実践的な経験を積むことができるオランダ・フオンティス応用科学大学で、学びを深める決意をしました。

留学開始をした2021年夏頃から就職活動に向けた動きが本格化してくる中で、企業から必ず問われるであろう“なぜマーケティングなのか？”という自分なりの理由を探し、マーケティング職として採用されるレベルの経験を積むことを目標として設定しました。

・対人力の向上

エリン・メイヤー著“異文化理解力”によると、日本とオランダは文化的に大きく異なっており特にコミュニケーションにおいては正反対と記されていました。そ

んなオランダでの様々な人々との交流から沢山のことを学び、吸収してみたいという強い好奇心もあり留学先としてオランダを選択しました。なので、留学先で
出会う全ての人との関わりを大切にしながら自身の対人力を向上させることを第
二の目標として掲げました。

活動報告

私は、2021年8月から2022年8月までオランダのフォンティス応用科学大学に
交換留学をしました。文化・慣習等が日本とは全く異なるヨーロッパでの1年間
は、刺激的で学びも多くありました。本報告書では、私の1年間の軌跡を記載し
たいと思います。

学業面について

オランダに来て一番驚いたことの一つとして講義スタイルの違いが挙げられま
す。私の履修した講義の一例を挙げると、各グループごとにクライアント企業が
与えられ、彼等が直面する現実課題に対してグループでコンサルティングプロジ
ェクトとして取り組みました。実際に Google Ads や Meta for Business 等を使用
しながらオンライン広告を作成してパフォーマンスを測定したり、ウェブサイト

の作成をおこなったりと実践的な内容が盛りだくさんで、必要に応じてインストラクターからの指導やコーチング、講義が提供されました。クライアントの中小企業は格安でデジタルマーケティングを導入することができ、学生は実践的な経験を積むことができるという双方にとってプラスな関係をもとに進められる講義は大変興味深く、刺激的でした。



講義の様子：グループワークがメインと

なるため、比較的小さな教室が多い。

オランダで履修した科目の中でも特に印象深かったのが、Online Psychology & Neuromarketing という講義です。

脳科学を利用したマーケティングは既に日常生活にありふれており、無意識のうちにコントロールされていると気づいたときの驚き、そして世の中のありとあらゆる広告や製品にはマーケターや企業の意図・メッセージが隠されていると知っ

た時に抱いた強い興味がとても印象に残っています。また、今回の講義で初めてマーケティングの知識を踏まえた上でのメッセージを発信する側（ marketer ）となる機会に恵まれ、テストを行った経験からは得るものが多くありました。

また、各講義はグループワークがベースで行われ、学期末には必ずと言っていいほどグループ課題の提出が求められました。そのため、オランダ現地の学生や留学生同士で交流する機会に恵まれ、文化や慣習、課題の進め方等に戸惑いながらも貴重な経験を積むことができました。



グループワーク

オランダでは正直な物言いが良いとされており、日本や英国に代表されるようなコミュニケーションを円滑化させる一言がありません。お互いに思っていることを躊躇いなくダイレクトに打ち明け、衝突しあいながらプロジェクトを進める彼

らに、当初の私はヒヤヒヤしながらペースを合わせることに精一杯でした。しかし、オランダでの生活が長くなるにつれてダイレクトなコミュニケーションはとても効率的で、そのおかげで余計なストレスを抱えることなく物事を進められていることに気づくことができました。このことから、日本語の相手を気遣った婉曲的な表現や、丁寧な言葉遣いの美しさを改めて実感するとともに、オランダでの全く異なるコミュニケーション方法の優れている点にも気付くことができました。

生活面について

私の中での一番大きな変化としては、様々な面で自信がついたことです。

20年間両親とともに生活をしてきた私にとって、海外での一人暮らしは大きな挑戦でした。留学当初は自分しか頼ることのできない状況の中で、日々の生活はもちろん、保険や銀行口座開設等、生活の土台を築き上げてきた経験は自信となりました。



1年間で過ごしたアパートメントの外観

初期は不安のあった語学力も、世界中から集まったたくさんの仲間と交流を重ねていく中で、“完璧でなくてもいい”ということに気づいてからは積極的に英語を使うことができるようになりました。これも、日本で出国前から重ねてきた努力とオランダでのマインドセットの変化があったからであると考えています。留学後半は、英語に加えてオランダ語の習得にも取り組みました。半年間では期待していたほどの成果を上げることができませんでしたが、それでも駅構内でのアナウンスやスーパーでの特売情報等、生活に役立つ情報収集に役立てることができました。



オランダのスーパーマーケットの様子

また、留学中は、オランダのみならず欧州各国やアジア、アフリカ、南米等様々な国籍・バックグラウンドをもつ学生と交流をする機会がありました。中でも南米やアフリカから留学に来ている学生とは、お互いの中での常識が異なっていたり、将来の考え方や生活習慣が違うことから、彼らとの交流は私の世界を見る目を広げる良いきっかけとなりました。

私が1年間を過ごした Tilburg という街は、オランダの中でもフェスティバルやカーニバルといった大きなイベントが盛りだくさんの都市として知られています。オランダ南部で行われる冬のカーニバル、国王の誕生日を国中で祝う King's Day、夏の夜を彩る移動式遊園地の Kermis 等、コロナウイルスの感染拡大の影響

で2年間続けて中止されてきたイベントがコロナ前と変わらない規模で開催され、街は活気に満ち溢れました。全てが規格外のイベントの数々に参加をした経験は、私の中での常識を良い意味で覆すきっかけとなりました。老若男女問わずに心の底から笑い、その瞬間を楽しみながら生きるオランダ人の姿からは日本では想像することもなかった新たな“幸せ”を垣間見ることができた気がします。



カーニバルの様子



King`s Day：ナショナルカラーであるオレンジで国中が彩られる。

何事にも寛容でオープンなオランダでの1年間は、これまでいかに自分が細かいことを気にしてストレスを抱えていたかに気づかせてくれました。文化的に日本と大きく異なるオランダでの生活は、私の価値観に間違いなく大きな影響があったと言えます。

総括

1年間のオランダでの交換留学を一言で表すなら“大成功の留学”でした。

充実した時間を過ごすことができたのみでなく、留学当初に掲げた以下二つの目標も達成することができたからです。

- ・マーケティングの実践力を身につける

講義内容は期待以上に実践的で、上述の通り大変満足しております。

また、第3学年秋学期からの留学であったこともあり、就職活動はオンラインで取り組みました。時差や地理的な隔たりから周囲のペースや緊張感等を掴むことができず苦労しましたが、晴れてマーケティング職として内定をいただくことができました。

最終面接では、オランダでのこれまでの学びやマーケティングに対する熱意をア

ピールすることができ、全力で取り組んだ結果掴むことのできた将来に大変満足しております。

・対人力の向上

留学当初、人付き合いに対して自信があるわけではなく、一人での渡航ということとで大きな不安を抱いていました。しかし、留学先で出会った個性豊かな仲間と共に時間を過ごすにつれてそうした不安も払拭され、充実した日々を送ることができました。クリスマス休暇を友人の実家で過ごしたのですが、温かく家族の一員の様に迎えていただいた時の喜びは忘れることができません。たくさんの出会いと良い人たちに恵まれながらも、右も左もわからなかった異国の地で人間関係を築き上げた経験は自信に繋がりました。



フランスで迎えたクリスマス

明確な目標をもって臨んだ留学であったため、これら二つの目標達成から胸を張

って帰国することができました。

本奨学金の使用用途について

私は、本奨学金の支援のおかげで1年間物価の高いヨーロッパでも不自由なく生活することが出来ました。特に留学後半はウクライナ情勢の悪化や円安等の影響により物価が高騰し、生活が少し厳しくなりましたが、それでも充実したご支援によって1年間金銭的なトラブルもなく帰国することが出来たことに心から感謝しております。

具体的な使用用途としては、ご支援を受けた額で海外保険や航空券、宿泊費等、渡航に関する出費をカバーすることができました。

また、本奨学金によって両親にも大きな負担をかけることなく交換留学が実現できたため、精神面での安心感を得ることができました。

おわりに

大学卒業後は、外資系家電メーカーでマーケティング職として勤務することになります。留学で培ったマーケティングの実践経験と対人力を最大限に活かして国内外問わず様々な人と交流、人脈を築き、キャリアのステップアップを目指しま

す。近い将来マーケターとしての私の仕事が、人々の生活をより豊かにする一助となればこの上ない喜びです。ヨーロッパでの生活を得て掴むことのできた自信を胸に、世界を舞台に活躍できる人材となります。



た。

公園にて：オランダの空は絵画のような美しさでし